

高知マリンイノベーションの推進によるさらなる生産性の向上

現状・課題

- ・漁業者の減少や高齢化が進む中、漁業生産額を維持していくためには、効率的な漁業生産体制への転換が必要
- ・本県水産業の生産から流通においてIoT化に取り組む「高知マリンイノベーション」を推進

⇒大学や民間企業等と連携し、AIなどのより高度なデジタル技術を活用することで、さらなる生産性の向上を図る

課題抽出

全体構想

課題解決のためのプロジェクト

目指す姿

オープンイノベーションプラットフォーム

本県水産業の課題解決のためのプロジェクトを募集



漁業現場の課題を
漁業指導所や
水産試験場が収集



- ・操業の効率化
- ・養殖業の餌削減など

現場課題をPT
(プロジェクトチーム)へ

新 高知マリンイノベーション運営協議会

東京大学
早稲田大学
高知大学
高知工科大学
JAMSTEC
JAFIC
開発調査センター
漁業協同組合

R2.2月
協議会を設置

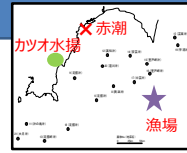
AI、IoT等の技術
(シーズ)

漁業現場の課題
(ニーズ)

データのオープン化PT

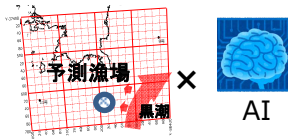


データベースの構築



情報発信システムの構築

漁船漁業のスマート化PT



メジカ漁場予測システムの開発
(AI等の活用による予測精度の向上)

新 画像解析手法による
漁場毎の漁獲量計測
システムの開発

養殖業のスマート化PT



本県養殖業のモデル的な
養殖方法を整理

魚体測定データ等を活用した
効率的な養殖方法の見える化

高付加価値化PT



自動計量システム (電子入札含む)

電子入札や入港管理システムの
構築等、産地市場のIoT化を推進

関連事業

衛星や漁場予測画像のHPでの
発信

・メジカの漁場予測手法の開発

・急潮予測手法の開発

・黒牧牧場の高機能化

遺伝子レベルでの赤潮の早期検知

自動計量システムの実装

漁船漁業 生産額 245億円 (H29)	養殖業 生産額 225億円 (H29)
↓	↓
254億円 (R5)	248億円 (R5)

データベースの構築
R3運用開始
情報発信システム
の構築
R3運用開始

県内市場取扱額
(メジカ)
6億円(H27~30平均)
↓
8億円(R5)

養殖生産量
(ブリ、マダイ、カパチ)
17,538トン(H30)
↓
19,200トン(R5)

スマート市場
0市場(H30)
↓
5市場(R5)